

第102期定時株主総会招集ご通知における インターネット開示情報

連結計算書類の連結注記表
計算書類の個別注記表
(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

株式会社長谷工コーポレーション

「連結計算書類の連結注記表」および「計算書類の個別注記表」につきましては、法令および定款の規定に基づき、当社ウェブサイトに掲載することにより株主の皆様提供しております。

連 結 注 記 表

連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数及び連結子会社名

連結子会社の数 63社

主要な連結子会社名

事業報告「I.企業集団の現況に関する事項 1-7.重要な子会社の状況」に記載のとおり。(株)長谷工コミュニティ西日本は新たに設立したため、当連結会計年度より連結子会社としている。前連結会計年度において連結子会社であった合同会社アール・エス・ワンを営業者とする匿名組合は2018年8月6日を以て清算している。

(2) 主要な非連結子会社名

(株)長谷工ナビエ、(株)長谷工テクノ

(3) 非連結子会社について、連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外している。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用会社の数

関連会社 1社

持分法を適用する関連会社名

HASEKO Homeloans,LLC

非連結子会社で持分法適用の会社はない。

(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社名

持分法非適用の主要な非連結子会社名

(株)長谷工ナビエ、(株)長谷工テクノ

(3) 持分法を適用しない非連結子会社・関連会社について、持分法を適用しない理由

持分法非適用の非連結子会社及び関連会社は、それぞれ当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外している。

3. 連結子会社の決算日等に関する事項

連結子会社のうちHASEKO America,Inc.及びその連結子会社は12月31日、合同会社ジェイ・エムシー・ワンを営業者とする匿名組合及び合同会社ジェイ・エムシー・ツーを営業者とする匿名組合の決算日は2月28日である。

連結計算書類の作成にあたっては、HASEKO America,Inc.及びその連結子会社については、12月31日現在の計算書類を使用している。ただし、1月1日から連結決算日3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行うこととしている。また、合同会社ジェイ・エムシー・ワンを営業者とする匿名組合及び合同会社ジェイ・エムシー・ツーを営業者とする匿名組合については、2月28日現在の計算書類を使用している。ただし、3月1日から連結決算日3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行うこととしている。

上記以外の連結子会社の決算日は連結計算書類作成会社と同一である。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

①有価証券

満期保有目的の債券

償却原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

②たな卸資産

未成工事支出金、販売用不動産、不動産事業支出金、開発用不動産等

主として個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）なお、販売用不動産のうち賃貸に供している物件については、有形固定資産に準じて減価償却を行っている。

材料

移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

貯蔵品

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）

定率法(ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)によっている。

連結子会社の一部は定額法によっている。

②無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっている。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっている。

③リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。

(3) 重要な引当金の計上基準

①貸倒引当金

売掛債権、その他これに準ずる債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上している。

②完成工事補償引当金

完成工事高として計上した工事に係る瑕疵についてその引渡し後において、自己の負担により無償で補修すべき場合の費用支出に備えるため、補修費用の見積額に基づき計上している。

③工事損失引当金

受注工事に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末における未引渡工事のうち損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積ることができる工事について、損失見込額を計上している。

④賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上している。

⑤役員賞与引当金

役員に対する賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上している。

⑥訴訟損失引当金

訴訟に対する損失に備えるため、損失見込額に基づき計上している。

⑦株式給付引当金

株式給付規程に基づく当社株式の給付に備えるため、当連結会計年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上している。

⑧役員株式給付引当金

役員株式給付規程に基づく当社株式の給付に備えるため、当連結会計年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上している。

(4) その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

①退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産を控除した額を計上している。なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっている。

過去勤務費用は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間（15～16年）による定額法により費用処理している。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間（5～21年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしている。

未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上している。

また、一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法をういた簡便法を採用している。

②重要な収益及び費用の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の請負工事については、工事完成基準によっている。

③重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理している。なお、在外連結子会社の資産・負債及び収益・費用は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における「為替換算調整勘定」に含めている。

④重要なヘッジ会計の方針

金利スワップ取引につき、特例処理を採用している。

⑤のれんの償却方法及び償却期間

発生時においてその効果の発現すると見積られた期間で均等償却を行っている。ただし、金額が僅少の場合には発生時の損益として処理している。

⑥支払利息の処理方法

連結子会社の一部は、不動産開発事業に要した資金に対する支払利息を販売用不動産等の取得原価に算入している。

⑦消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっている。ただし、連結子会社において免税事業者に該当する場合は、税込方式によっている。

⑧連結納税制度の適用

連結納税制度を適用している。

(表示方法の変更)

(『税効果会計に係る会計基準』の一部改正)の適用)

『税効果会計に係る会計基準』の一部改正(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)に伴う、「会社法施行規則及び会社計算規則の一部を改正する省令(法務省令第5号 平成30年3月26日)」を当連結会計年度から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更している。

なお、前連結会計年度において「流動資産」に区分していた「繰延税金資産」(前連結会計年度7,292百万円)は、当連結会計年度においては「投資その他の資産」の「繰延税金資産」9,345百万円に含めて表示している。

(連結貸借対照表)

前連結会計年度まで独立掲記していた「流動負債」及び「固定負債」の「リース債務」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示している。

なお、前連結会計年度の連結貸借対照表における「流動負債」の「リース債務」は1,327百万円、「固定負債」の「リース債務」は7,450百万円である。

連結貸借対照表に関する注記

- | | |
|---|-----------|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額 | 22,612百万円 |
| 2. 担保に供している資産及び担保に係る債務 | |
| (1) 担保に供している資産 | |
| 受取手形・完成工事未収入金等 | 2,767百万円 |
| 流動資産（その他） | 20百万円 |
| 建物・構築物 | 57百万円 |
| (注) 上記の担保に供している資産の他、連結計算書類上相殺されているが、下記の資産を担保に供している。 | |
| P F I 事業に係る借入金について | |
| 当社及び(株)長谷工コミュニティが保有する(株)H C勝島町住宅の株式9百万円、当社からの(株)H C勝島町住宅向け貸付金157百万円を担保に供している。 | |
| (2) 担保に係る債務 | |
| 短期借入金 | 636百万円 |
| 長期借入金 | 1,907百万円 |

3. 保証債務等		
保証債務		
銀行等借入債務		
提携住宅ローン利用顧客	1,123件	36,551百万円
不動産等購入ローン利用顧客	3件	50百万円
有料老人ホーム土地建物所有者	1件	352百万円
		<hr/>
		36,953百万円
4. 退職給付に関する事項		
退職給付債務		△53,833百万円
年金資産		65,382百万円
退職給付に係る資産		<hr/> 11,549百万円
連結貸借対照表に計上された退職給付に係る資産		12,613百万円
連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債		△1,064百万円
退職給付に係る調整累計額（税効果控除前）		
未認識数理計算上の差異		10,495百万円
未認識過去勤務費用		△514百万円
		<hr/>
	合計	9,981百万円
5. 記載金額の百万円未満は四捨五入して表示している。		

連結損益計算書に関する注記

1. 工事進行基準による完成工事高

486,491百万円

2. 減損損失

当連結会計年度において当社グループは、主に以下の資産について減損損失を認識した。

用途	種類	場所	件数
建設関連事業用資産	工具器具備品	東京都港区	2件
サービス関連事業用不動産	建物及び土地等	千葉県市川市 他	19件
サービス関連事業用資産	機械装置及び備品等	大阪市中央区 他	7件

減損損失を認識した建設関連事業用資産、サービス関連事業用不動産及びサービス関連事業用資産については、個別の物件毎にグルーピングしている。収益性の低下及び売却方針決定等により、上記資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（652百万円）として特別損失に計上した。その内訳は、建物・構築物586百万円、機械、運搬具及び工具器具備品55百万円、土地6百万円、リース資産4百万円、その他無形固定資産2百万円である。なお、建設関連事業用資産の回収可能価額は、取引事例等により算定した正味売却価額を採用している。サービス関連事業用不動産及びサービス関連事業用資産の回収可能価額は使用価値を採用しているが、将来キャッシュ・フローに基づく評価額がマイナスであるため、使用価値を零として評価している。また割引前将来キャッシュ・フローがマイナスであるため、割引率の記載を省略している。

3. 記載金額の百万円未満は四捨五入して表示している。

連結株主資本等変動計算書に関する注記

1. 発行済株式の種類及び総数

	当連結会計年度 期首株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 株式数
普通株式	300,794,397株	－株	－株	300,794,397株

2. 自己株式の種類及び総数

	当連結会計年度 期首株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 株式数
普通株式	3,439,632株	3,597株	32,326株	3,410,903株

(注) 1. 普通株式の自己株式の増加3,597株は、単元未満株式の買取請求による買受けによるものである。

2. 普通株式の自己株式の減少32,326株は、主に「株式給付信託（B B T）」及び「株式給付型E S O P」の信託財産として所有する当社株式の給付等32,200株によるものである。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年6月28日 定時株主総会 (注1)	普通株式	12,024	40.00	2018年 3月31日	2018年 6月29日
2018年11月9日 取締役会 (注2)	普通株式	3,006	10.00	2018年 9月30日	2018年 12月6日

(注1) 配当金の総額には、「株式給付信託 (B B T)」及び「株式給付型 E S O P」の信託財産として所有する当社株式に対する配当金130百万円が含まれている。

(注2) 配当金の総額には、「株式給付信託 (B B T)」及び「株式給付型 E S O P」の信託財産として所有する当社株式に対する配当金32百万円が含まれている。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

2019年6月27日開催の定時株主総会の議案として、株式の配当に関する事項を次のとおり提案する予定である。

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会 (予定) (注)	普通株式	21,042	利益剰余金	70.00	2019年 3月31日	2019年 6月28日

(注) 配当金の総額には、「株式給付信託 (B B T)」及び「株式給付型 E S O P」の信託財産として所有する当社株式に対する配当金225百万円が含まれている。

4. 記載金額の百万円未満は四捨五入して表示している。

賃貸等不動産に関する注記

1. 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社及び一部の連結子会社では、主に首都圏、近畿圏及び東海圏において、賃貸住宅、賃貸オフィスビル及び賃貸商業施設等（土地を含む）を所有している。

2. 賃貸等不動産の時価に関する事項

(単位：百万円)

連結貸借対照表計上額	時価
84,593	92,378

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額である。

2. 当連結会計年度末の時価は、主として不動産鑑定評価額に基づく金額である。

金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については安全性の高い金融資産に限定し、資金調達については社債及び金融機関からの借入によっている。

受取手形・完成工事未収入金等に係る顧客の信用リスクは、社内規程に従い信用状況の確認、債権残高の管理及び担保の取得によるリスク軽減に努めている。貸付金も社内規程に基づき定期的に信用調査を実施している。

有価証券は容易に換金可能な譲渡性預金であり、安全かつ流動性の高いものである。投資有価証券は主として株式であり、時価あるいは発行体の財務状況を定期的に把握している。

借入金は営業活動にかかる資金調達であり、一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引を利用し支払利息の固定化を実施している。なお、デリバティブは、借入金の金利変動リスクを回避するために利用し、投機的な取引及び短期的な売買損益を目的とした取引は行わない方針である。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2019年3月31日（当期の連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりである。

（単位：百万円）

	連結貸借対照表 計上額（*）	時価（*）	差額
(1) 現金預金	212,423	212,423	－
(2) 受取手形・完成工事未収入金等	139,312	139,464	153
(3) 有価証券	2,751	2,751	－
(4) 投資有価証券	19,067	19,073	6
(5) 長期貸付金	3,084		
貸倒引当金	△24		
	3,060	3,220	160
(6) 支払手形・工事未払金等	(86,331)	(86,331)	△0
(7) 電子記録債務	(52,449)	(52,449)	－
(8) 1年内返済予定の長期借入金	(17,762)	(17,787)	25
(9) 1年内償還予定の社債	(10,000)	(10,018)	18
(10) 未払法人税等	(21,059)	(21,059)	－
(11) 社債	(20,000)	(20,192)	192
(12) 長期借入金	(72,642)	(73,113)	470
(13) デリバティブ取引	－	－	－

（*）負債に計上されているものについては、（ ）で示している。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によって

いる。

(2) 受取手形・完成工事未収入金等

これらのうち短期間で回収される債権については、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。回収期日まで長期にわたる債権については、一定の期間ごとに分類し、その将来キャッシュ・フローを、回収までの期間及び信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値により算出している。

(3) 有価証券

これらは譲渡性預金であり、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

(4) 投資有価証券

これらの時価については、取引所の価格によっている。

(5) 長期貸付金

これらの時価については、一定の期間ごとに分類し、その将来キャッシュ・フローを、国債の利回り等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算出している。

また、貸倒懸念債権については、回収見込額により時価を算出している。

(6) 支払手形・工事未払金等及び (7) 電子記録債務

これらのうち短期間で決済される債務については、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。決済期日まで長期にわたる債務については、一定の期間ごとに分類し、その将来キャッシュ・フローを、決済までの期間及び信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値により算出している。

(8) 1年内返済予定の長期借入金及び (12) 長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定している。

変動金利によるもののうち、金利スワップの特例処理の対象となる長期借入金については、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定している。

なお、「1年内返済予定の長期借入金」は連結貸借対照表において「短期借入金」に含めて表示している。

(9) 1年内償還予定の社債及び (11) 社債

市場価格のあるものは市場価格に基づき、市場価格のないものは元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定している。

(10) 未払法人税等

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

(13) デリバティブ

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該借入金の時価に含めて記載している(上記(8)及び(12)参照)。

2. 非上場株式等(連結貸借対照表計上額6,249百万円)は、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4) 投資有価証券」には含めていない。

1 株当たり情報に関する注記

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 1株当たり純資産額 | 1,234円13銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 293円87銭 |

企業結合等に関する注記

当社及び当社の連結子会社である株式会社長谷工アネシスは、2018年4月19日開催の取締役会において、株式会社長谷工アネシスの高圧一括受電サービス事業および共用部電力小売りサービス事業（以下、「スマートマンション事業」）をNext Power株式会社に譲渡することを決議した。

株式会社長谷工アネシスは、同日付で締結した吸収分割契約に基づき、2018年7月1日付でスマートマンション事業をNext Power株式会社に譲渡した。

本取引は、Next Power株式会社に対して、株式会社長谷工アネシスがスマートマンション事業に関して有する資産及び負債を会社分割（吸収分割）の方法により承継させるものである。

1. 事業分離の概要

(1) 分離先企業の名称及び概要

①	名称	Next Power株式会社
②	所在地	東京都中央区日本橋堀留町2丁目2番1号 住友不動産人形町ビル4F
③	代表者の役職・氏名	代表取締役社長 古澤公志
④	事業内容	集合住宅等における電力一括購入及び配電 電力小売り事業 電気設備の設計 電気設備の工事、保守
⑤	資本金	230億円

(2) 分離した事業の内容

スマートマンション事業

(3) 事業分離を行った主な理由

当社グループは、マンション入居者様へ株式会社長谷工アネシスのスマートマンション事業のサービス拡大を推進し、当該事業における提供戸数の確保と品質向上を図ってきた。

今般、本サービスご利用の契約者様に将来の利便性の向上をご享受いただくために、エネルギー分野における日本のリーディングカンパニーである関西電力株式会社の100%子会社であるNext Power株式会社へ事業承継することとした。

(4) 事業分離日

2018年7月1日

(5) 法的形式を含む取引の概要

受取対価を現金等の財産のみとする吸収分割

2. 実施した会計処理の概要

(1) 移転損益の金額

事業譲渡益 21,349百万円

(2) 移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額

資産	金額	負債	金額
流動資産	804百万円	流動負債	691百万円
固定資産	7,104百万円	固定負債	7,218百万円
合計	7,908百万円	合計	7,908百万円

3. 分離した事業が含まれている報告セグメントの名称

サービス関連事業

4. 当連結会計年度の連結損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の概算額

	金額
売上高	2,330百万円
売上総利益	187百万円

重要な後発事象に関する注記

該当なし。

個別注記表

重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

満期保有目的の債券

償却原価法

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) たな卸資産

未成工事支出金、販売用不動産、不動産事業支出金

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

なお、販売用不動産のうち賃貸に供している物件については、有形固定資産に準じて減価償却を行っている。

材料

移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

貯蔵品

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法）によっている。

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっている。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっている。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売掛債権、その他これに準ずる債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上している。

(2) 完成工事補償引当金

完成工事高として計上した工事に係る瑕疵についてその引渡し後において、自己の負担により無償で補修すべき場合の費用支出に備えるため、補修費用の見積額に基づき計上している。

(3) 工事損失引当金

受注工事に係る将来の損失に備えるため、当期末における未引渡工事のうち損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積ることができる工事について、損失見込額を計上している。

(4) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上している。

(5) 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上している。

(6) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上している。

①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり退職給付見込額を当期末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっている。

②数理計算上の差異、過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間（15年）による定額法により費用処理している。

数理計算上の差異は、各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間（15～18年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌期から費用処理することとしている。

(7) 株式給付引当金

株式給付規程に基づく当社株式の給付に備えるため、当期末における株式給付債務の見込額に基づき計上している。

(8) 役員株式給付引当金

役員株式給付規程に基づく当社株式の給付に備えるため、当期末における株式給付債務の見込額に基づき計上している。

4. 収益及び費用の計上基準

当期末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の請負工事については、工事完成基準によっている。

5. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) ヘッジ会計の方法

金利スワップ取引につき、特例処理を採用している。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっている。

(3) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用している。

(表示方法の変更)

(『税効果会計に係る会計基準』の一部改正)の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)に伴う、「会社法施行規則及び会社計算規則の一部を改正する省令」(法務省令第5号 平成30年3月26日)を当期から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更している。

なお、前期において「流動資産」に区分していた「繰延税金資産」(前期3,925百万円)は、当期においては固定資産に組み替えられ、「固定負債」の「繰延税金負債」と相殺表示されている。この結果、「固定負債」の「繰延税金負債」が1,001百万円となっている。

貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額	6,363百万円
2. 関係会社に対する短期金銭債権	2,391百万円
// 長期金銭債権	79,041百万円
// 短期金銭債務	31,135百万円
// 長期金銭債務	357百万円
3. 担保に供している資産及び担保に係る債務	
連結子会社における短期借入金636百万円及び長期借入金1,907百万円に対して、関係会社株式8百万円及び長期貸付金157百万円を担保に供している。	
4. 保証債務等	
保証債務	
銀行等借入債務	
不動産等購入ローン利用顧客 1件	2百万円
執行停止保証	
(※) HASEKO (Hawaii), Inc. 他8社	2,775百万円
保証金等返還債務	
(※) (株)センチュリーライフ	575百万円
	<hr/>
	3,352百万円
(※) 内、関係会社分	3,350百万円
5. 退職給付債務に関する事項	
退職給付債務	△31,755百万円
年金資産	39,387百万円
未積立退職給付債務	7,633百万円
未認識数理計算上の差異	6,073百万円
未認識過去勤務債務	△366百万円
前払年金費用	13,340百万円
6. 記載金額の百万円未満は四捨五入して表示している。	

損益計算書に関する注記

- | | |
|-------------------------------|------------|
| 1. 工事進行基準による完成工事高 | 446,303百万円 |
| 2. 関係会社との取引高 | |
| 売 上 高 | 23,115百万円 |
| 仕 入 高 | 98,917百万円 |
| 販売費及び一般管理費 | 2,959百万円 |
| 営業取引以外の取引高 | 3,595百万円 |
| 3. 減損損失 | |
| 当期において当社は、以下の資産について減損損失を認識した。 | |

用途	種類	場所	件数
建設関連事業用資産	工具器具備品	東京都港区	2 件

減損損失を認識した建設関連事業用資産については、個別の物件毎にグルーピングしている。

売却方針決定に伴い、上記資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（6百万円）として特別損失に計上している。その内訳は、工具器具・備品6百万円である。

なお、当該資産の回収可能価額は取引事例等により算定した正味売却価額を採用している。

4. 記載金額の百万円未満は四捨五入して表示している。

株主資本等変動計算書に関する注記

1. 自己株式の種類及び総数

	当期首 株式数	当期 増加株式数	当期 減少株式数	当期末 株式数
普通株式	3,439,632株	3,597株	32,326株	3,410,903株

(注) 1.普通株式の自己株式の増加3,597株は、単元未満株式の買取請求による買受けによるものである。

2.普通株式の自己株式の減少32,326株は、主に「株式給付信託（BBT）」及び「株式給付型ESOP」の信託財産として所有する当社株式の給付等32,200株によるものである。

2. 記載金額の百万円未満は四捨五入して表示している。

税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 of 主な原因別の内訳

繰延税金資産

貸倒引当金	176百万円
未払事業税	633百万円
完成工事補償引当金	1,637百万円
賞与引当金	1,046百万円
販売用不動産等評価損	2,143百万円
減損損失	546百万円
投資有価証券評価損	3,616百万円
その他	1,970百万円
繰延税金資産小計	11,768百万円
評価性引当額	△7,220百万円
繰延税金資産合計	4,548百万円
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	△1,451百万円
前払年金費用	△4,085百万円
その他	△14百万円
繰延税金負債合計	△5,550百万円
繰延税金負債の純額	△1,001百万円

(注) 「販売用不動産等評価損」には、保有目的の変更により流動資産から固定資産へ振替えた不動産に係るものが33百万円含まれている。

関連当事者との取引に関する注記

子会社

属性	会社等の名称	議決権等の所有	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	不二建設(株)	所有 直接91%	資金の借入 役員の兼任	資金の借入 (注1)	23,650	短期借入金	—
				資金の返済	23,650	—	—
子会社	(株)ハセック	所有 直接100%	建築資材等 の購入及び 工事の外注 役員の兼任	建築資材等 の購入及び 工事の外注 (注2)	66,184	電子記録債 務 工事未払金	13,064 8,313
子会社	(株)長谷工 リフォーム	所有 間接100%	資金の貸付 役員の兼任	資金の貸付 (注3)	20,800	長期貸付金	—
				資金の回収	20,800	—	—
子会社	(株)長谷工 ライブネット	所有 間接100%	資金の借入 役員の兼任	資金の借入 (注1)	42,100	短期借入金	—
				資金の返済	42,100	—	—
子会社	(株)長谷工 ビジネス プロクシー	所有 間接100%	資金の貸付 役員の兼任	資金の貸付 (注3)	6,480	長期貸付金	2,564
				資金の回収	6,631	—	—
子会社	(株)長谷工 アーベスト	所有 間接100%	資金の借入 役員の兼任	資金の借入 (注1)	15,700	短期借入金	—
				資金の返済	15,700	—	—
子会社	総合地所(株)	所有 間接100%	資金の貸付 利息の受取	資金の貸付 (注3)	41,083	長期貸付金	53,522
				資金の回収	15,700	—	—
			建築工事 の受注	建築工事の 受注	—	未成工事受 入金	9,491

取引条件及び取引条件の決定方法

- (注) 1. 資金の借入については、市場金利と経営状況を勘案して利率を合理的に決定している。
 2. 価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案して、価格交渉の上で決定している。
 3. 資金の貸付については、市場金利と経営状況を勘案して利率を合理的に決定している。
 4. 取引金額には消費税等を含めていない。期末残高には消費税等を含めている。

1 株当たり情報に関する注記

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 1株当たり純資産額 | 1,019円16銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 193円60銭 |

重要な後発事象に関する注記

該当なし。